

磐城時報

編輯兼發行所 田中 弘成
印刷所 磐城印刷所
電話 二五五
廣告料 一行十四字 一月金五拾錢
日刊 (日曜、祭日) 休刊

佐藤氏家兩候補

愈々石城に進出

平町に事務所を置いて活動 激戦地となる石城郡

第三區から立候補するものと見られて七日から運動を開始する佐藤氏。佐藤氏は五日事になった。同時に民政派氏家本部の公認を得て同日正式に立清氏も平町田町丸清方を選挙事務所として相馬郡原町を事務所として石城地方の運動を開始した。同時に平町鍛冶政の四候補入り亂れ大激戦地となり吉田伴吉方を石城郡の事務所化するわけになった。

鵜澤博士に代つて

堀切前議長來郡

木村氏のため應援演説 九日平町と内郷で

政友派木村清治氏の應援演説の辯士は馬目雅治、猪狩千勝兩氏のため本部から鵜澤聰明博士が来る。外本部特派員梅田道之氏等が郡する事既報の如くであったが、同博士は都合のため来郡し能はざる事情になつたので前衆議院議長堀切善兵衛氏が代つて来郡する事になった。堀切氏は九日午後一時から内郷村大字宮警城劇場並に午後五時から平町聚樂館の二ヶ所に於て木村候補と共に應援のため熱辯を揮ふ事となり前人氣を呼んでゐる。

▲氏家候補演説會

政友派氏家清氏は六日午後五時から平町聚樂館に於て政見發表演説會を開く筈であるが、應援のため濱口首相、安達内相、井

▲氏家候補演説會

民政政友支部では今次の総選挙に際し政府の政策を闡明せしむるため濱口首相、安達内相、井

上藏相等にトーカーを公開すべく準備中であつたが愈々六日、七日兩日平、湯本、植田その他各町村で第一聲を擧げる事になつたが、同トーカーは濱口首相の「國民に訴ふ」安達内相、政界の「草正」井上藏相の「經濟界の建直し」の三種である。

木村候補の事務所緊張

政友派木村候補の選挙事務所では平町田町白土自動車部乗合自動車所を置き石城地方に進出して来目に行中田町通りを南進してたので樂觀を許されぬ立場となつた。平町田町野崎自動車部小橋つたため候補者始め運動員一同宗雄(二)の運轉する乗合自動車物凄く急いで活動を續けてゐる。車のため常盤銀行平支店角で横

日給辨當代の

荒井平警察署長が

木村、比佐兩派に注意

石城郡地方に於ける選挙戦は日相違してゐる場合があるので、一日と猛烈となつて来たので平が問題となる法定選挙費用を超過する選挙違反事件を未然に防過した理由のもとに失格する場署では選挙違反事件を未然に防過した理由のもとに失格する場止する為め荒井署長が總指揮を合が生ずるやうな事があれば面なし選挙心得を一般に配布する。倒なので荒井署長は四日同署に一方それ、警告を發してゐる。木村候補の事務局長山崎吉平、比が選挙の運動費は從來各候補者佐候補の事務局長萩原義雄兩氏をとも適當に案配して作製しての招き車馬賃、人夫の日給、辨當た爲め車馬賃、辨當代、印刷物代等の價格を協定する様注意を代等甲、乙兩者の費用がそれ程與へ兩派でも此の協定を破らす隔たりがないものまで甚だしくに精算書を作製する事となつた

七日の演説會

▲木村候補 午後一時赤井校、平窪村、午後五時小川校、好問校
▲比佐候補 平、内郷、植田、泉
▲警城青年同盟會 双葉郡大久村、久ノ濱町
▲相馬海兵検査 昭和五年度の相馬郡内海軍志願兵募集は検査は三、四兩日に巨中村第二小學校内に於て執行した。

白土と野崎の自動車

本町通りで衝突

白土と野崎の自動車から衝突され白土の自動車の車体が大破したが乗組者には別條がなかつた。

若い妻の引止め策に

毒をのんだと偽る

一杯喰はされた金成醫師
石城郡神谷村大字鎌田二十六番順、嘔吐を催はすため胃洗滌薬地鈴木徳次郎(二六)は一月三十を施した由で相當重態視されて一日午後五時頃劇薬硝酸を服用するが、平署では舉動不審の点し自殺を企てたといふので附近があるので取調べた處、毒藥をの者駆けつけ平町鎌田町金成醫師服用とは偽はり左の如き事情院金成忠義氏の診断を乞ひ一方が判明した。

驚いた!!!

こゝまで安んじは
加納派版所の印刷物

棄權防止策

不在投票の
相馬地方の節分三
日は節分で同地方各所の神社佛閣では恒例に依り豆撒式を執行したが何れも開散であつた。倉の三町一ヶ村では来る二十日たが今年七月七日降雨があつた、座大黒神社の鬼外福内の豆撒式は多敷参詣者賑ふために不在投票をなさしむべく候は依然變態的に動いてゐる。

候補者家庭訪問記

木村候補愛婿夫妻

選挙に一番大切な軍資金が無
いからと辭退したもの、解散の常道により石城郡の政友派から推されて再起した木村清治氏の家族を石城郡大浦村大字下仁井田に訪ねる。
金には恵まれぬといふ木村さん、せん子(五五)夫人との間に三男四女の子福者で、醫業の方は三女の子(二二)さんに迎へた愛婿の醫學士守江

候補者の程を眉宇に現はす
父は家産も傾けたのだしこれまで政治運動では親戚にも随分迷惑をかけてゐる、親族一同から辭退勧告を受けたので折角同志から推薦されたに拘らず政治を生命として

私も心配で選挙が終るまでは落着いて脈を診ても居られないので當分誰か代りを頼み私も及ばずながら一生懸命奔走する考へです、と覺悟の程を眉宇の間に現してゐた。

